



# 本気・根気・元気

令和6年10月8日発行【第6号】

発行者：佐賀市立昭栄中学校

校長 永田康子

学校教育目標：夢に向かって たくましく 挑戦する生徒の育成 - 自律・協働 -

生徒会スローガン：飛翔～impossible is nothing～

今年の夏はまさに酷暑でしたが、ようやく心地よい風が吹く季節となりました。9月には前期の期末テストがありました。前期に各教科で学んだことを理解し自分のものになっているのかを確認するためのテストです。授業で学んだことは時間の経過とともに忘れていくことが多いです。忘れずに学んだことを定着させるにはそれなりの工夫と努力が必要です。工夫の仕方はそれぞれに違うと思いますので、生徒の皆さんには、自分に合った学習の仕方を見つけてほしいと思います。ご家庭でも、保護者の方が中学生の頃どのように勉強されたのかを是非お伝えください。家庭学習の時間がかかなり少ない、または全くしていないという生徒たちも見受けられます。「勉強」というとさせられている感じがしますが、本来、何かを学ぶことは楽しくワクワクすることです。酷暑が終わり、実りの秋のこれからの時期、生徒たちの学びも豊かなものになることを切に願います。

## 「頼り頼られる仲間づくり」No.4

2学期の全校朝会では信頼関係に基づいた人間関係について話をしていきます。先日はその4回目でした。以下一部抜粋して紹介します。

仲良くなる、仲間になるのは誰にとっても嬉しいことです。頼り頼られる仲間になったら、その仲間と仲良くい続けたいですね。ところが、仲良くなることよりも、仲良くい続けることのほうがずっと難しいです。せつかく信頼して仲良くなった仲間です。喧嘩して話さなくなったなんてことにはなりたくないですね。では、どうすれば長く仲間でい続けることができるのでしょうか。1つ目は「NGを伝え合う」ことです。お互いに「ここまではできる」「これ以上はできない」というNGをはっきりさせておくことがポイントです。もちろん、NGを伝えるときは、相手の困り感に対して、自分にできることは最大限してあげたいけど、自分の力ではどうにもできないレベルのNGです。ですから信頼関係は壊れません。最大限できることをしてくれることに対してありがたいという気持ちになります。大切な仲間だからこそどうしてもできない「NG」を伝えよう。2つ目は、二人のやり取りで終わらせないことです。信頼できる仲間が一人だと、そのうちお互いにきつくなってきます。そして、お互いにどうしてもできないレベルのままだと困ることがあります。そのときには他のできる仲間に頼ります。だれでもできることとできないことがあります。できないことはできる人が助けます。お互い様です。だから仲間は多いほうがいいのです。

思春期の生徒たちは兎角人間関係で悩みますが、仲間の大切さを知るのもまたこの時期です。本校の教育目標である「夢に向かって たくましく 挑戦する生徒の育成」も仲間がいてこそできることです。頼り頼られる仲間づくりは生徒自身がすることです。大人が手伝えることはあまりありません。生徒たちには自分たちで課題に気づき、悩みながらも助け合うことでその課題を解決するという経験をたくさん経験してほしいと思います。

## 昭栄中生、頑張っています

### 佐賀地区中学生駅伝大会

8月からほぼ一か月半、朝早くに30分ほど練習をしていました。そのためにいつもより早く起き、きつい練習に励みました。大変な日々だったと思いますが、まずはそれを覚悟して参加したことに敬意を表します。佐賀地区中学生駅伝大会は9月27日（金）に東与賀町干潟よか公園で行われました。天気にも恵まれましたが、まだまだ残暑が厳しい中での開催でした。男子2チーム、女子1チームが昭栄中を代表して走り、襷をつなげていきました。男子Aチーム、女子チームが県大会に出場します。駅伝の練習に参加した皆さんに心からの拍手を送ります。



### 小学校の運動会でボランティア

9月29日（日）に嘉瀬小学校で運動会が行われました。本校から、生徒会役員の4名がボランティアとして参加しました。今後は、10月19日（土）に新栄小学校、20日（日）には日新小学校へそれぞれ参加します。このボランティア活動については、地域の役に立ちたいという生徒たちの希望により昭栄中校区の3小学校で活動をさせていただいています。依頼から打ち合わせ、当日の活動はすべて生徒たちが直接小学校の先生方と行っています。すでに終わった嘉瀬小学校の江島校長先生からは感謝の言葉を頂きました。新栄小学校、日新小学校でも頑張ることと期待しています。

### あいさつ

最近、自分から挨拶をする生徒が増えてきました。これは大変嬉しいことです。前回の学校だよりでも挨拶の大切さについて触れています。元気な挨拶はそれだけで相手を喜ばせることができます。これからもさわやかな挨拶を交わし合う一日のスタートになっていくことと期待しています。

## 生徒たちの学び方が変わっています

保護者の方々や地域の方々を対象にした授業参観を年に複数回実施していますが、教職員を対象にした公開授業も行っています。今年度は中村祐介教諭と井上真由子教諭が授業を公開しました。中村教諭は教育情報化推進のモデル授業を市内の先生方に提案し、井上教諭は協働的な学びを柱とした授業を提案しました。また、昨年度まで本校勤務（今年度は教育センター所員）の原正和教諭が「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授

業を本校で公開されました。これまでは一斉授業で教師が説明し、生徒たちはそれを理解して練習問題に取り組む姿が見られました。静かに授業を受けることが落ち着いた生徒の姿と思われていたこともあります。しかし、それではこれからの変化の激しい予測できない時代を生きていく生徒たちに必要な力がつけられないことから、本校でも生徒たちの学びの様子が随分変わってきています。生徒たちが受け身ではなく、主体的に授業に参加し、互に関わり合いながら学びを深めるよう構成された授業が多くなりました。公開授業をすることで、本校教職員のスキルが向上し、生徒たちの学びへの意識も高まります。次回の授業参観では、生徒たちがいかに主体的に学んでいるかに注目してください。



生徒たちは現在、10月25日（金）に行われる文化発表会・合唱コンクールに向けて準備中です。各学年での取組、各クラスでの合唱の練習にも力が入ってきました。当日をどうぞ楽しみにしてください。